

令和5年度 巡回現場会議 実施結果について

令和6年3月



国土交通省 関東地方整備局
企画部 技術管理課

令和5年度 巡回現場会議 概要

<実施目的>

■巡回現場会議は、建設現場における施工の効率化、生産性の向上、担い手の確保・育成などを目的とした施策の実施状況の確認と課題を把握し、必要に応じ改善を図るため、工事発注や監督に直接関係しない本局の企画部職員が各事務所の建設現場等を巡回する取り組み（平成22年度から開始）

<令和5年度の実施方法>

■受注者との意見交換

時間外労働の実態と要因、設計図書の精度や工事書類の簡素化、設計変更の対応、監督職員の対応やガイドラインマニュアル等の改善点など、現場代理人等と率直な意見交換を行う。

■主任監督員、現場技術員との意見交換

土木工事電子書類スリム化ガイドや遠隔臨場、ワンデーレスポンスなどの運用状況や課題、所内間や受発注者間におけるコミュニケーションの状況などについて主任監督員と現場技術員と率直な意見交換を行う。

■令和5年度の実施状況

21事務所 30現場で実施

<過去の実施件数>

年度	事務所数	現場数
H22	27	46
H23	28	78
H24	27	65
H25	27	81
H26	28	84
H27	28	84
H28	29	87
H29	30	91
H30	30	89
R1	30	90
R2	4(15)※1	12(45)※1
R3	29(14)※2	87(42)※2
R4	12	16

※1 ()アンケートのみ回収
 ※2 ()うちWEB開催



受注者ヒアリング状況

主なアンケート調査項目を以下に示す。

I. 現場実態把握調査

- Q 1 三者会議の実施状況
- Q 2 設計審査会の実施状況
- Q 3 ワンデーレスポンスの実施状況
- Q 4 設計図書の条件明示(関係機関協議、設計成果の引き渡し時期等)
- Q 5 設計成果と現場の整合
- Q 6 工期設定
- Q 7 週休2日制適用工事の試行状況
- Q 8 遠隔臨場の試行状況
- Q 9 受発注者間の打合せにおけるWEB活用状況
- Q10 若手技術者の配置状況
- Q11 工事書類の量

II. 認知度、活用状況調査

- ・設計変更ガイドライン
- ・一時中止ガイドライン
- ・設計照査ガイドライン
- ・条件明示の手引き

■工事書類の作成は？

- ・協議書類の作成は負担がかかる。
- ・立会の書類をASPで上げるのに手間がかかる。
- ・現場業務の負担を減らすため、会社でのバックアップや外注を活用している。
- ・自ら作成した書類でないと検査時に説明するのが難しくなるので、書類作成の外注は敬遠してしまう。

■時間外労働(超勤)の実態は？

- ・監理技術者と現場代理人それぞれで現場と内業を並行して行い超勤が少なくなるよう工夫している。
(月20～30時間程度の現場が最も多かったが、なかには月80時間を超過している現場もあった。)

■週休2日の状況は？

- ・降雨により作業不能日が生じた場合、土曜日に作業を振り替えているため、土・日の完全週休2日は難しいと感じる。
(ほとんどの現場が工期全体での週休2日に取り組んでいる状況。月単位で週休2日に取り組んでいる現場もあり、なかには土日閉所に取り組んでいる現場もあった。)

■主任監督員や現場技術員の対応は？

- ・とてもよく対応してもらっており問題なし。
- ・施工体制員と技術員で書類関係の指摘が異なる為、横並びを図って頂きたい。

■現場で困っていることは？

- ・関係機関との協議が整っておらず、現場が一時中止している。

■その他(要望など)

- ・35歳以下の若手技術者の加点を無くせないか。国の工事も取りたいが、会社としては、若手は自治体工事で経験を積んでから国の工事に携わせたいと考えており悩んでいる。
- ・スライド協議に係る資料もスリム化できないか。
- ・会議や打合せ等が全てWEBになってきているが、ちょっとした相談や他社へ聞きたいことなどが聞きにくい。基本対面でコミュニケーションを取りながら行い、忙しいときにWEBを活用したい。

■受注者とのコミュニケーション状況は？

- ・工程会議を月2回、対面で開催しており、問題や課題点はそこで解決している。
- ・すぐに連絡が取れる手段は多くなったが、対面が減っており、コミュニケーションが希薄になっていると感じる。
- ・受注者から相談しやすい環境づくりに努めている。

■発注担当課とのコミュニケーション状況は？

- ・オンラインを活用しコミュニケーションを図っている。
- ・審査会等を通して相談、打合せが出来ている。

■時間外労働(超勤)の実態は？

- ・工事検査や関係機関協議に時間を要することが多く、超勤に繋がる。
- ・夜間工事対応が超勤の原因になっている。

■現場管理に係る改善点は？

- ・1件1件丁寧に対応していきたいと心がけているが、担当工事が多いため、1件あたりの対応時間が少なくなってしまうことが悩み。

■その他

- ・事務所毎にローカルルールがあるため、都度臨機に対応する必要がある。

《主な意見・要望》

■ ワンデーレスポンスの実施

- ・回答期限を指定しても期限までに回答がないことがある。
⇒ 令和5年12月のワンデーレスポンス実施の手引きに基づき、「その日のうちに」指示、通知等を行うことを原則とする。また、即日回答よりも回答内容の確実性を重視し、組織的に迅速に対応。

■ 設計図書への条件明示不足

- ・関係機関協議に関する条件明示が不足しており、現場に入ってから苦労している。
- ・設計成果の引き渡し時期が、特記仕様書に明示されていた時期よりも遅かった。
⇒ 「土木工事条件明示の手引き(案)」を活用し、引き続き、適切な条件明示に努める。

■ 設計成果と現場の不整合

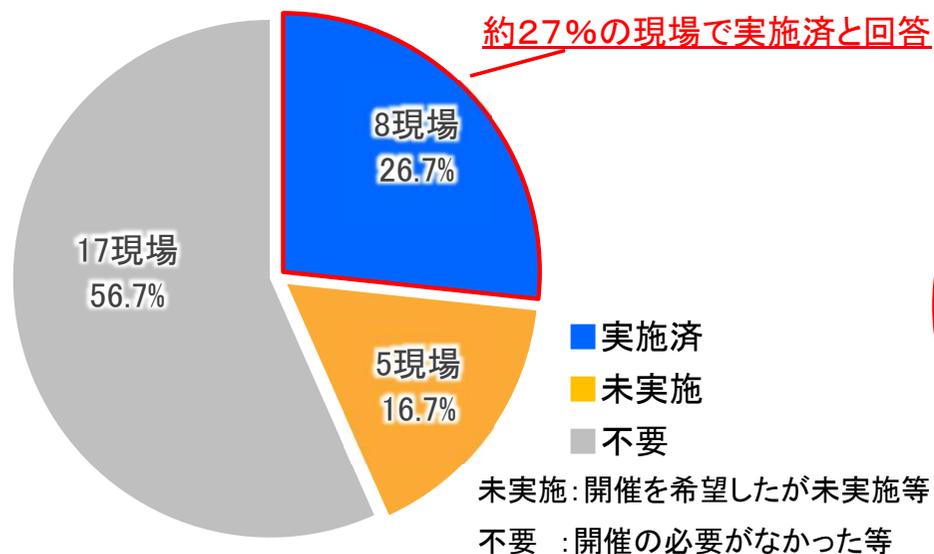
- ・設計図書に最新の情報が反映されていなく、一部不整合感がある。
⇒ 設計成果の精度向上に向けて、引き続き適切な対応に努める。

■ 適正な工期の設定

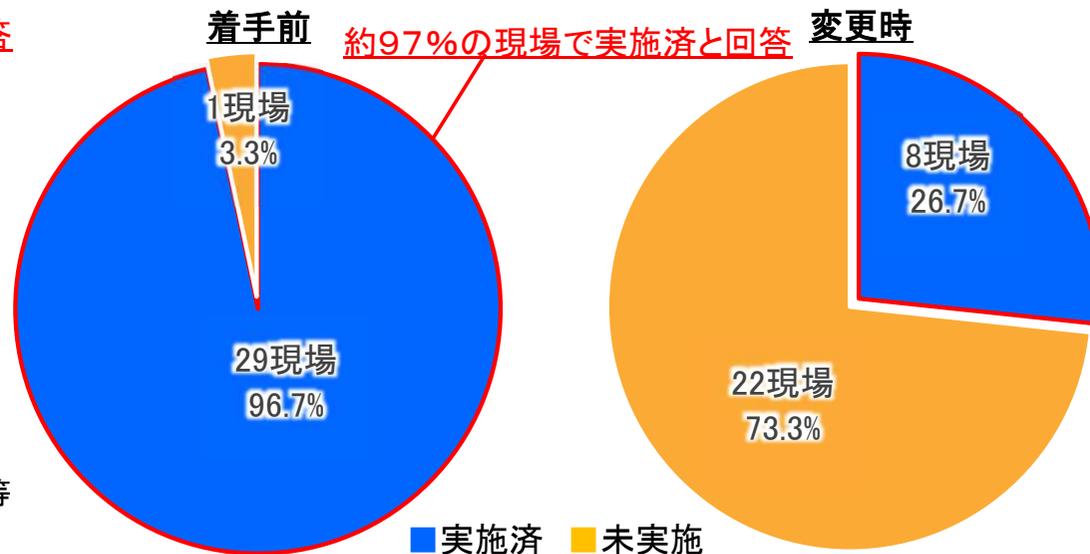
- ・概略工程表上のパーティー数と実態は合っていない。
- ・条件明示が不足していたため、当初想定していた工程では厳しい状況である。
⇒ 2024年4月から適用される建設業の時間外労働の上限規制も踏まえ、引き続き、適正な工期の設定に努める。また、現場条件、施工条件に変更が生じた場合は適正に工期変更を行う。

I. 現場実態把握調査 <①各種制度の実施状況>

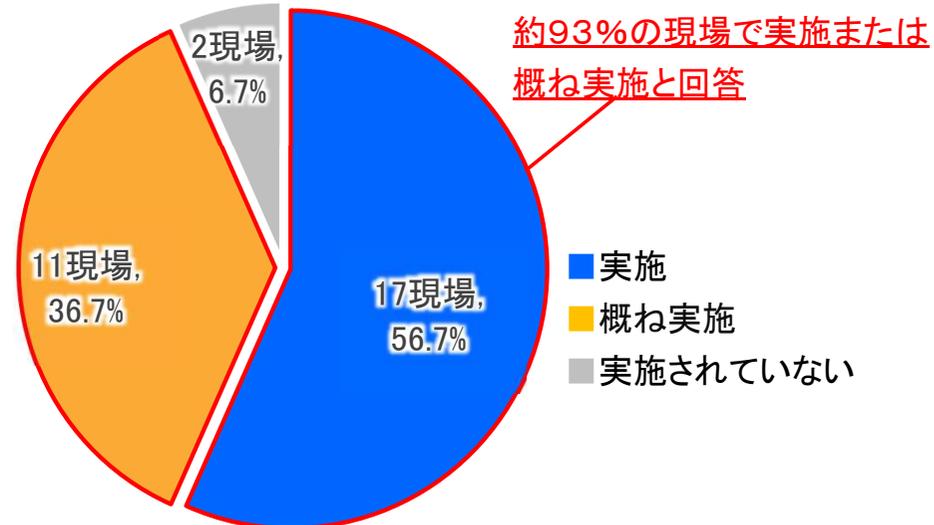
Q1 三者会議の実施状況について教えてください。



Q2 設計審査会の実施状況について教えてください。



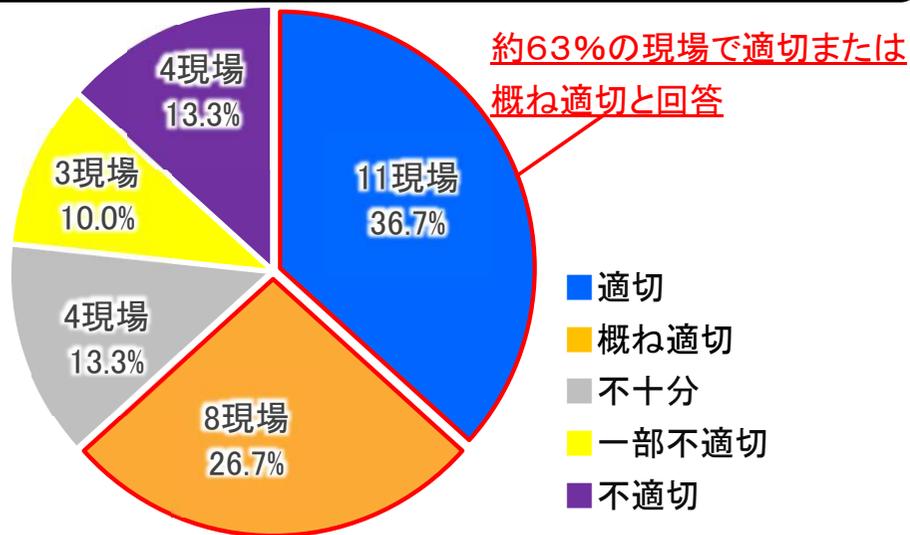
Q3 ワンデーレスポンスの実施状況について教えてください。



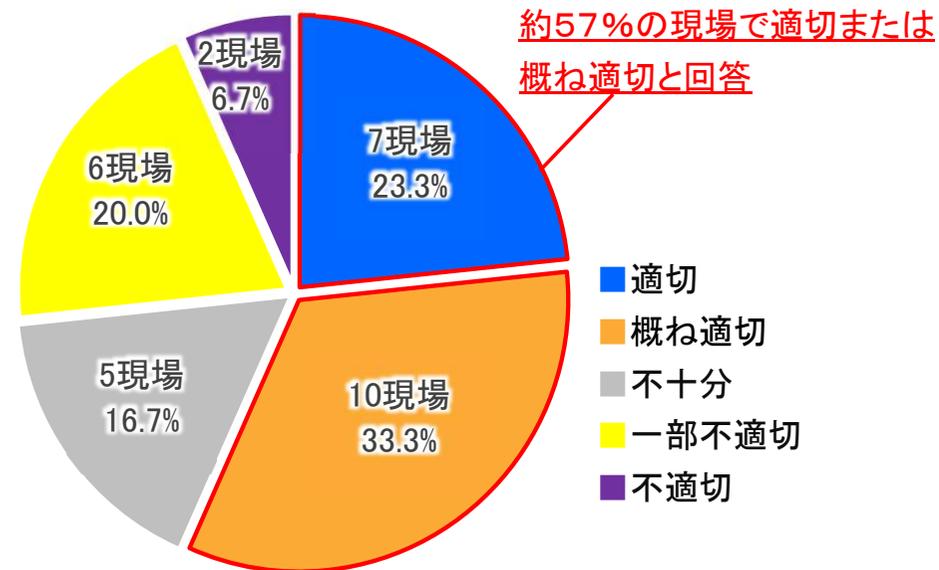
I. 現場実態把握調査

<②設計図書の条件明示等の状況>

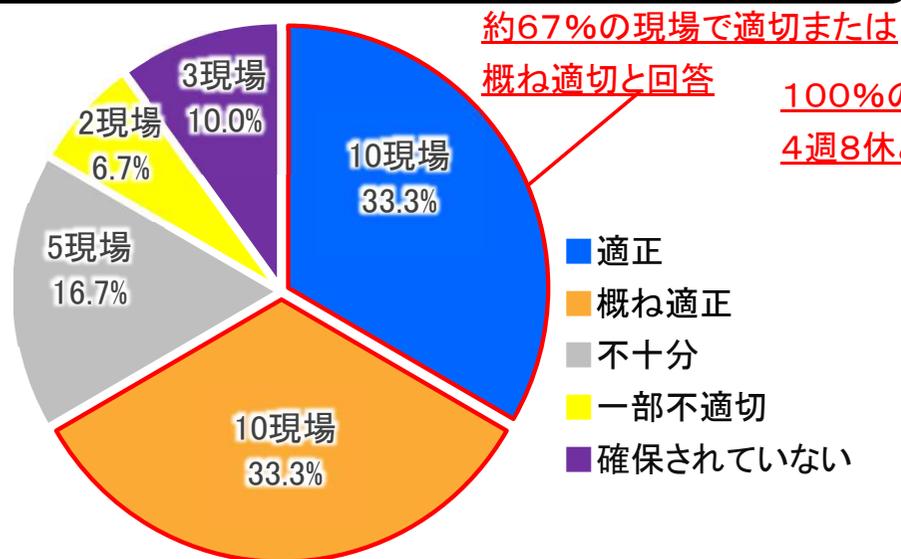
Q4 設計図書の条件明示について教えてください。



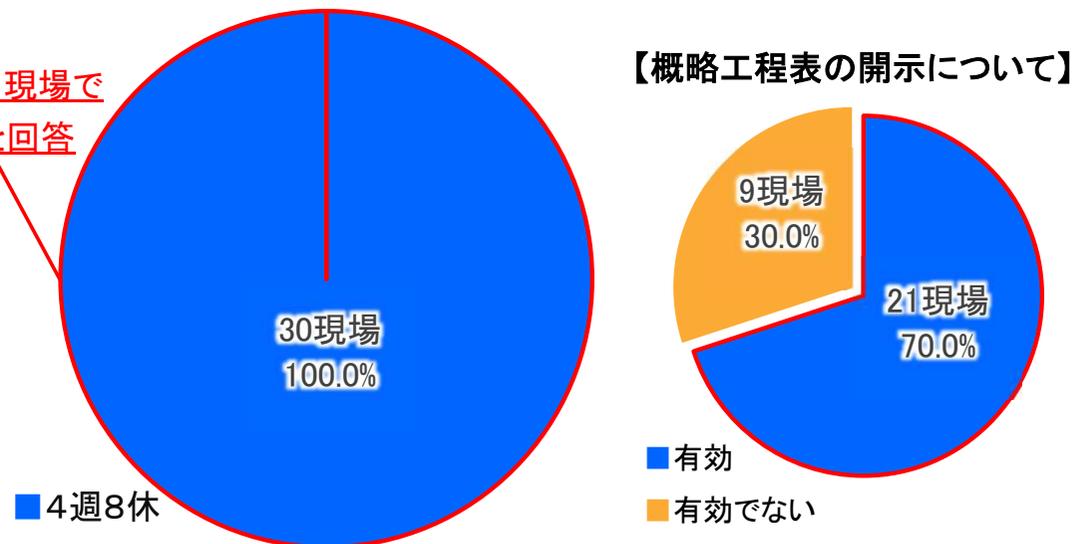
Q5 設計成果と現場の整合について教えてください。



Q6 工期設定について教えてください。



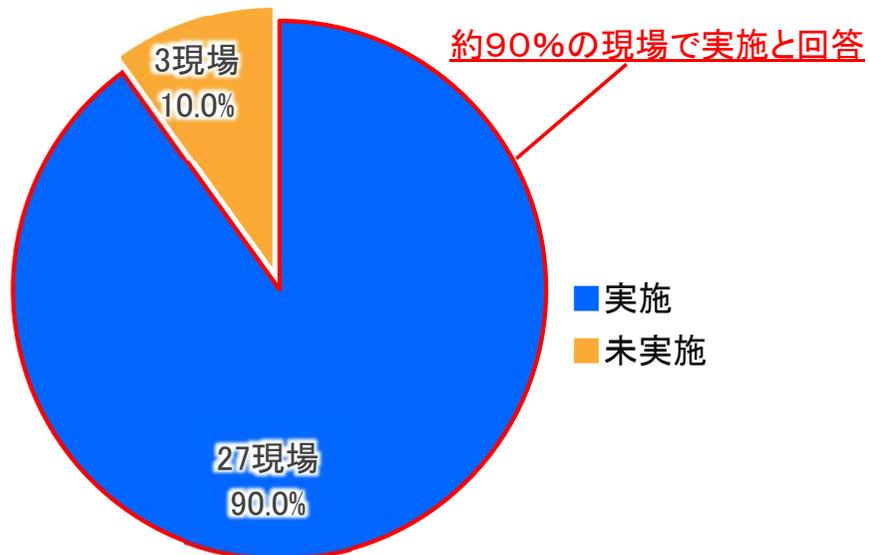
Q7 週休2日制適用工事の試行状況について教えてください。



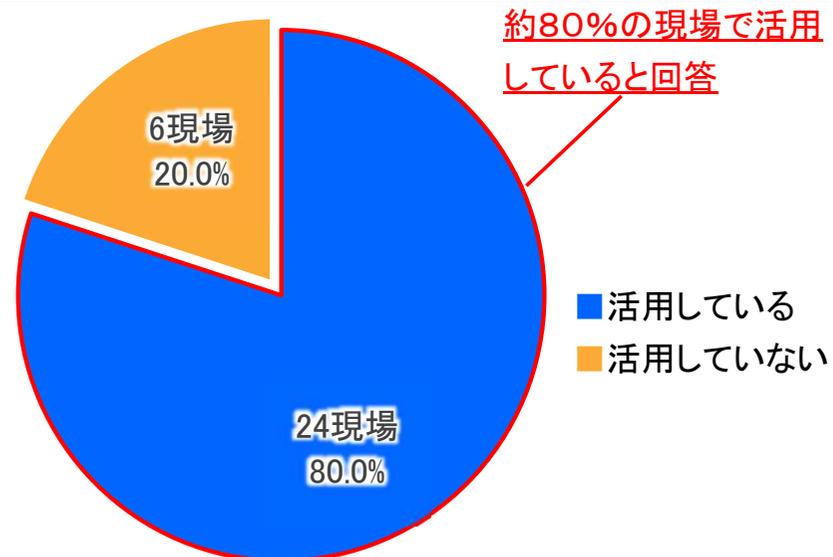
I. 現場実態把握調査

<③担い手確保、生産性向上の実施状況>

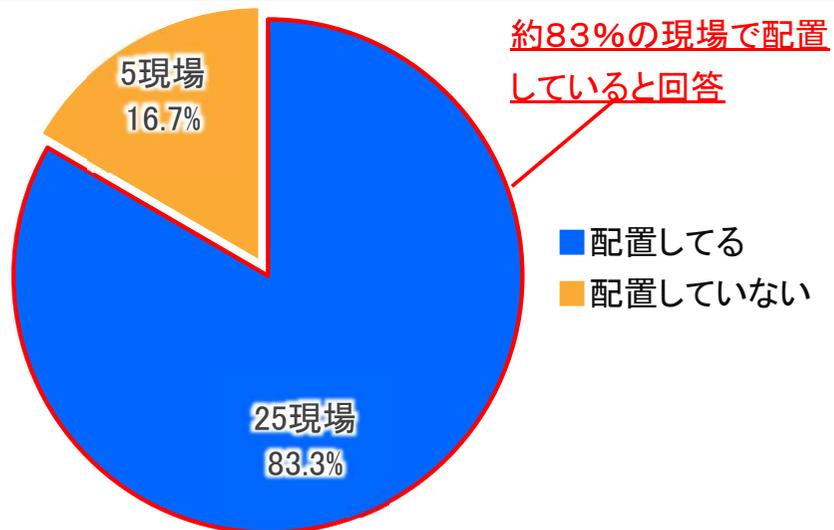
Q8 遠隔臨場の試行状況について教えてください。



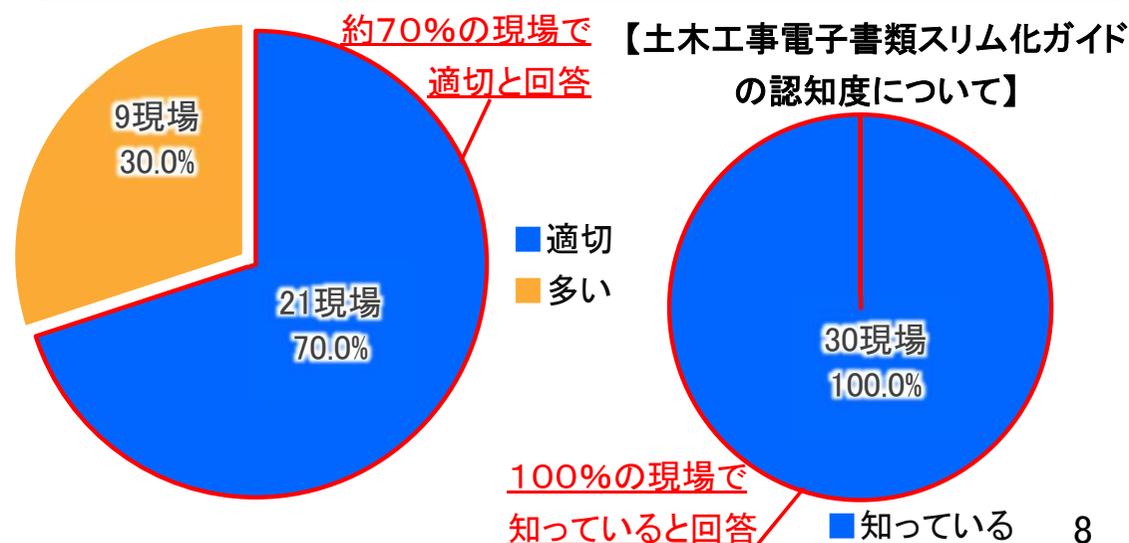
Q9 受発注者間の打合せにおけるWEB活用状況について教えてください。



Q10 当該工事における35歳以下の若手技術者の配置状況を教えてください。



Q11 工事書類の量について教えてください。



II. 認知度、活用状況調査<各種ガイドラインの認知度、活用状況>

Q 各種ガイドラインの認知度、活用状況について教えてください。

	設計変更ガイドライン	一時中止ガイドライン	設計照査ガイドライン	条件明示の手引き
認知度	<p>1現場 3.3% 29現場 96.7%</p>	<p>2現場 6.7% 28現場 93.3%</p>	<p>4現場 13.3% 26現場 86.7%</p>	<p>8現場 26.7% 22現場 73.3%</p>
	凡例 : ■知っている ■知らない			
活用状況	<p>6現場 20.0% 2現場 6.7% 22現場 73.3%</p>	<p>10現場 33.3% 4現場 13.3% 16現場 53.3%</p>	<p>3現場 10.0% 4現場 13.3% 23現場 76.7%</p>	<p>9現場 30.0% 8現場 26.7% 13現場 43.3%</p>
	凡例 : ■活用している ■活用していない ■活用機会なし			